

生誕 200 年記念文化財講演会

持ち上げた610キログラム

日本一の力持

越谷出身

三ノ宮卯之助

講師 高崎 力

(NPO法人・越谷市郷土研究会・常任顧問)

日時 平成19年8月25日(土)

午後1時30分～3時30分

場所 越谷市中央市民会館・劇場

主催 越谷市教育委員会
NPO 越谷市郷土研究会
法人
後援 越谷市文化連盟

埼玉県における力石の重量刻字(60貫以上)

	所在地	備考	
大磐石	桶川市寿	稲荷神社	重量刻字は無いものの日本で最大と推測される 重量刻字は無いものの非常に重いと推測される
大磐石	越谷市三野宮	香取神社	
百貫余	春日部市粕壁東	東八幡神社	
百メ目	越谷市北川崎	川崎神社	
百貫目余	久喜市太田袋	琴平神社	
百	蕨市北町	高窪宅	
八三目	三郷市彦倉	延命院	
八十メ余	春日部市梅田	女体神社	
八十メ目	越谷市北川崎	川崎神社	
八拾貫余	松伏町松伏	松伏神社	
七十五貫	入間市宮寺	西久保観音	
七十五メ目	松伏町魚沼	妙音寺	
七拾五貫余	草加市旭町	薬師堂	
七拾メ余	春日部市西金野井	香取神社	
七拾貫目余	川越市新河岸	日枝神社	
七拾貫目	越谷市向畑	墓地	
七拾貫余	幸手市中野	中野神社	
七十貫目余	草加市八幡町	天神様	
七十貫	三郷市彦倉	延命院	
七十貫	和光市白子	吹上観音	
七十貫目	松伏町築比地	香取神社	
七十貫目余	さいたま市緑区宮本	氷川女体神社	
六十五貫	入間市宮寺	西久保観音	
六拾五貫余	春日部市粕壁東	東八幡神社	
六十五メ目	越谷市大吉	不動明王	
六拾五貫余	草加市清門町	田中稲荷神社	
六拾五貫目	さいたま市緑区東浦和	稲荷大明神	
六十四メ目	越谷市川柳町	稲荷神社	
六三	三郷市谷中	稲荷神社	
六拾貳貫目	草加市谷塚町	菟田稲荷神社	
六拾二メ目	大和町細間悪土	八坂神社	
六拾二貫	さいたま市南区内谷	東光寺	
六十メ目	上尾市領家	天満宮	
六十貫	朝霞市下内間木	氷川神社	
六拾貫余	春日部市粕壁東	東八幡神社	
六十貫	春日部市粕壁	粕壁神明社	
六十貫	川口市西立野	西福寺	
六十メ目余	川口市峯	峰ヶ岡八幡神社	
六十メヨ	川越市小室	氷川神社	
六十メ目	越谷市恩間	香取神社	
六十貫目余	志木市柏町	氷川神社	
六拾貫目	志木市柏町	宝徳寺	
六拾貫目余	志木市宗岡	荒井萬治郎宅	
六拾メ目	志木市宗岡	産財氷川神社	
六拾貫目余	志木市宗岡	羽根倉浅間神社	
六拾貫目	草加市旭町	薬師堂	
六十貫目余	新座市野火止	若宮八幡社	
六十貫	新座市野火止	氷川神社	
六拾貫余	三郷市戸ヶ崎	香取神社	
六十貫	三郷市幸房	興禅寺	
六拾貫目	八潮市小作田	華蔵院	
六拾貫目餘	八潮市大曾根	八幡神社	
六十貫	八潮市西袋柳之宮	氷川神社	
六十貫	松伏町魚沼東	稲荷神社	
六十メ	白岡町白岡	八幡神社	
六十貫目余	さいたま市大宮区高鼻町	氷川神社	
六十貫目	さいたま市桜区在家	消防器具庫裏	
六拾貫目余	さいたま市中央区大戸	氷川神社	
六拾貫目余	さいたま市見沼区蓮沼	八雲神社	
六拾貫目餘	さいたま市見沼区中川	中山神社	

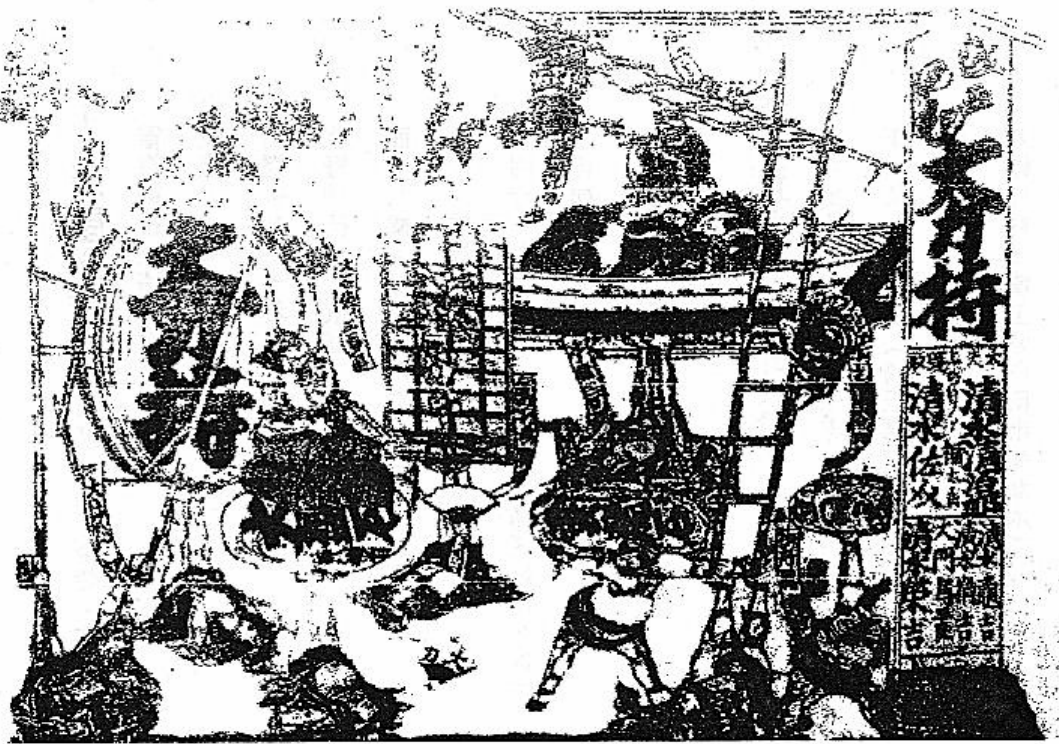


図2 清水の力持ち引き札(所在不明)

「奉納 六拾貫目余 弘化四年丁未 正月吉日 宗岡村 荒井清治郎」
 荒井清治郎

清水の力持ち

上宗岡羽倉浅間神社と、下宗岡下の宮水川神社とにある力石にも荒井清次郎の名が刻まれているが、この清次郎が非常な力持ちで、近在でも評判の者であったという。彼がまだ若くて農業をしていたころのことであったそうだが、両手に米俵を一俵ずつ提げて歩いているのに出会った人が、「糠俵なんかぶらさげて、どこへ行くだ。」と聞くと、「糠俵なんかじゃねえよ。お年貢米を納めに行くんだよ。」と答えたので、その力の強さにびっくりしたという話が残っている。この荒井清次郎を中心として、近所の力持ちの連中が一座を組織して江戸に出て、各種の力技を演じて大評判を博した。また、各地を巡業し、清岡(現在の中華人民共和国)へも渡って興業し好評を得た。下宗岡下の宮水川神社境内で、奉納演技をしたことがあり、現在同神社境内に残っている力石のうちの一つが、その奉納演技のときに使用したものであるという。

〔図2〕は、この一座が用いた宣伝ビラである。これを見ると、大部分の者が清水の姓を用いているが、実際には荒井・星野・木下等であつたらしい。清次郎の住んでいた辺りの地名を、俗に「清水」と呼んでいたもので、その出身地にちなんで一同が清水の姓を称したらしい。これによって、一座は「清水の力持ち」として評判になった。荒井清次郎は、明治四年ごろ勤める人があつて、再度の海外巡業に出発することになった。それが盆の十六日であつた。出発に当たつて、愛用の六十貫目余の力石をさし上げて自宅を一周し、「もし自分が帰つて来なかつたなら、きょうを命日とし、この石を霊神として祭つてくれ。」と、言い残して旅立ったが、ついに帰らなかつた。家人は、遺言どおりその力石を屋敷の一隅に霊神として祭つた。現在もなお同家の庭先に残っている。清次郎は、明治八年六月(日時不詳)インドで死亡したらしいのであるが、死亡届けを出す者がいなかったので除籍することができず、満一〇〇歳に達するのを待つて裁判所の許可を得て、大正五年十二月に至つて除籍されている。

志木市郷土誌(一)

埼玉県有力石に名を残す、力持力士として代表的な人物とその有力石

1 万屋金蔵 (飯田町(橋) 金蔵・萬本店金蔵) (11個)

雷電神社 (埼玉県幸手市中)

2

○観蔵寺 (千葉県木更津市中里)

1

○白幡神社 (千葉県銚子市本通)

1

北野神社 (東京都大田区仲六郷)

1

西部八幡神社 (東京都大田区久が原)

1

亀戸天神社 (東京都江東区亀戸)

1

法明寺・鬼子母神 (東京都豊島区雑司ヶ谷)

2

大鳥神社 (東京都目黒区下目黒)

1

三嶋大社 (静岡県三島市大宮町)

1

2 荒井清治郎 (清水清治郎) (6個)

○荒井萬治郎宅 (埼玉県志木市下宗岡)

1

下の宮氷川神社 (埼玉県志木市下宗岡)

2

羽根倉浅間神社 (埼玉県志木市宗岡)

2

八幡神社 (埼玉県戸田市美女木)

1

※荒井清次郎が清水清次郎として掲載されている、清水の力持ち引き札(図2)の現物は、

遺族の転居により現在、所在不明。



力自慢 飯田町金蔵 渡辺華山の絵

3 矢向弥五郎 (川崎弥五郎・稲毛弥五郎) (6個)

○東八幡神社 (埼玉県春日部市粕壁東) 1

稲荷神社 (埼玉県三郷市谷中) 1

神明神社 (千葉県野田市太子堂) 1

面足神社 (千葉県山武郡九十九里町田中荒生) 1

幸龍寺 (東京都世田谷区北鳥山) 1

日枝神社 (神奈川県横浜市鶴見区矢向) 1

※矢向村 (神奈川県横浜市鶴見区矢向) 出身、文政五年(一八三三)生、姓不詳。

4 肥田文八 (5個)

稲荷神社 (埼玉県さいたま市岩槻区南平野) 1

○香取神社 (埼玉県さいたま市岩槻区長宮) 1

○氷川神社 (埼玉県さいたま市大宮区高鼻町) 1

○琴平神社 (埼玉県久喜市太田袋) 1

○八坂神社 (千葉県野田市瀬戸) 1

※天保四年(一八三三)の御上覧力持番付に西大関として記載されている。

5 江戸本郷久蔵 (小嶋久蔵) (6個)。

○飯塚神社 (埼玉県さいたま市岩槻区市飯塚) 1

○神明社 (埼玉県さいたま市岩槻区釣上) 1

○観音堂 (埼玉県越谷市瓦曾根) 1 所在不明

稲荷神社 (埼玉県三郷市谷中) 1

○観蔵寺 (千葉県木更津市中里) 1

築土神社（東京都千代田区九段北）

1

※江戸本郷（現文京区本郷）の出身と推測される。

※三ノ宮卯之助生家の向佐家にあつた番付（現在、所在不明）に記載されていた。

6 田中巳之助（山谷・東京都台東区）

（8個）

○浅間神社（埼玉県草加市瀬崎町）

3

大鷲神社（東京都足立区花畑）

3

亀戸天神社（東京都江東区亀戸）

1

清光寺（東京都台東区西浅草）

1

7 本町東助（9個）

氷川神社（埼玉県戸田市上戸田）

1

実相院（東京都足立区伊興）

1

善養寺（東京都江戸川区東小岩）

1

富賀岡元八幡宮（東京都江東区南砂）

2

香取神社（東京都江東区亀戸）

1

○幸龍寺（東京都世田谷区北鳥山）

2

鳥越神社（東京都台東区鳥越）

1

※幸龍寺（東京都世田谷区北鳥山）に碑があり、力持ち力士として有名な人物である。また浅草寺（東京都台東区浅草）にある「熊遊石」の台座にも世話人として名前を残している。

※慶応二年の力持番付および明治二十一年の興行広告番付にも名前がある。

越 谷 市 域 の 力 石 (一)

所 在 地	個 数	刻 字
【越谷市】		
(1) 久伊豆神社・越ヶ谷	2	①奉納 五十貫目 天保二辛卯年四月吉日 三ノ宮卯之助持之 本町 會田權四郎②奉納 二拾貫余 文政九戌九月吉日 新町 榮藏
(2) 八幡神社・越谷	2	①奉納 會田石 嘉永五壬子五月 □□□□ 會田八右エ門 世八人 藤田庄右エ門 田中与一郎 神奈川 龜吉持之 長谷川繁八持之石工卯之助
(3) 観音堂・越谷音和町	1	①奉納 二十四貫 文政五 十月吉□
(4) 香取神社・三野宮	4	①奉納 大磐石 嘉永元年□□ 足而□□ 三之宮卯之助②奉納 三王石 嘉永元年三月持之 三之宮卯之助③奉納 白龍石 三之宮卯之助持之④奉納 指石 三之宮卯之助
(5) 向佐昭市宅・三野宮	1	①さし石 □□ 卯之助
(6) 八幡神社・南	2	①奉納 さし石 三拾五貫目 天保七丙申六月吉日 株竹 治郎吉②奉納 二拾八貫目 天保七丙申六月吉日 株竹 治郎吉
(7) 香取神社・大道	10	①奉納 力石四十メ 天保十五辰年九月吉日 大道村 □之助 □□良 ②奉納諏訪大明神 三拾二メ目 大道村
(8) 久伊豆神社・蒲生	2	①大亀石 当所 中野光治郎 大正八年七月吉日 四十二メ②手玉石 当所 中野光治郎 大正八年七月吉日 三十五メ
(9) 久伊豆神社・蒲生	2	①奉納 二拾四貫目 当所 □吉□ □□□②奉納 御寶前
(10) 香取神社・大沢	3	①奉納力石②書付「力石 六〇キロ」③奉納力石 二□□□ 大沢町
(11) 稲荷神社・平方戸崎	1	①奉納御寶前 九斗三舛目
(12) 神明神社・神明町	2	①奉納 三十八メ目 享保十八年三月□ 神明下村②奉納三拾二メ目 享保十八年三月□ 神明下村
(13) 香取神社・船渡	2	①奉納 四十八メ目 瀬尾吉藏②五十六メ目
(14) 香取神社・大松	8	①奉納 二十メ目余 大松村 源藏②奉納 □□メ 文政□□□ □□ □□□
(15) 川崎神社・北川崎	17	①二石目 河崎村 若者中②五拾貫目 文政七甲申五月吉日 川崎村 同行四人③奉納 百メ目 文久二壬戌年 五月吉日 川崎村 同行八人 ④奉納 八十メ目 天保十一子四月吉日 川崎邑 同行八人⑤奉納 三拾貫目 文政八年 正月吉日 川崎村 同行四人⑥奉納 五拾貳貫目 文政七申正月吉日 川崎邑 同行五人⑦五拾五貫目 享保十七子年 新方領 川崎村中⑧五十メ目 天保三壬辰四月吉日 伊右エ門 民八 庄次郎⑨奉納 五拾メ目 明治七申戌年五月 同行 六人⑩三十二メ□ 寛政五丑九月吉日 川崎村 同□⑪奉納 三拾二メ目 天保九□□□月 □□ 川□□⑫三十四メ目 寛政六□八月 川□□ 同行十二人⑬力□
(16) 香取神社・下間久里	2	①奉納力石三拾八メ目 天明五□□年 下間久里村 □□□②奉納力石 □□三メ目□□□□八月吉日 下間久里
(17) 稲荷神社・大里	2	
(18) 稲荷神社・千間台西	1	①奉納力石 寛延二己巳五月吉祥日 武羽岩附領 三拾六メ五百目 大道村□□若者中
(19) 香取神社・恩間	4	①奉納 力石四十貳貫目 恩間邑□□②奉納 力石六十メ目 □文十丁 □□ 恩間邑 □□ 須賀 佐久③奉納二十八 恩□□ 大力
(20) 稲荷神社・千間台西	1	①奉納稲荷大明神 力石三十二貫 恩間村
(21) 稲荷神社・谷中	2	①奉納二拾□ 文政□②二十二メ
(22) 天満神社・七左町	1	①奉納御寶前 天保四

所在地	個数	刻字
(23) 増森神社・増森	3	①力石 □□七年 當□ 松伏□ 田嶋村 石原 同 大川戸村
(24) 豊田実宅・増森	1	
(25) 久伊豆神社・野島	1	①奉納力石三十二メ目 享保十九寅年 四月吉日 野嶋村 若者中
(26) 大竹神社・大竹	3	①奉納 力石四拾八メ目 天保十五□□年 □□□□②奉納 力石 四十メ余 嘉永三庚戌年 □吉日 吉沢□□ 武藤正次良 □□茂
(27) 香取神社・大林	2	①奉納御寶前三十四メ目 享保十八年 癸丑二月吉日 新方領 大林村 若者②奉納御寶前 享保十八年 癸丑二月吉日三十メめ 大林村若者
(28) 五社稻荷神社・南荻島	3	①奉納 三十八メ 弘化四未年 九月吉日 当所 伊之助②奉納 三十八□□ 荻島村
(29) 香取神社・東大沢鷺後	8	①奉納 五十メ目 弘化四丁未年五月吉日 當所 初五郎②奉納 四十メ目 嘉永四辛亥九月 清水初五良③三十七メ④二十メ余⑤明治拾六□三十二貫
(30) 香取神社・東越谷小林	1	①納石三十五貫目 元禄十三辰年
(31) 三社神社・大間野	6	①奉納御□□ 文化三年 寅十□②奉納御寶前 文化八年未五月 四拾八貫目 巳□講中③奉納 十八メ
(32) 水神宮・増林前並	2	①奉納 水神宮 二拾八貫余 前並若者中②奉納 水神宮 九斗目 前波組若者中
(33) 香取神社・増林	2	①奉納 増林 一□②奉納 貳拾五貫 増下 栗原権治郎
(34) 不動堂・増林	1	①奉納 四拾二メ目 今井文次郎
(35) 観音堂・瓦曾根	4	①奉納 鈴宇志 文政十二己丑歳 瓦曾根②さし石 十八メ 明治廿七年九月 須賀初五朗③さし石 明治廿七年九月 須賀初五朗④さし石 明治廿七年九月 須賀初五朗
(36) 久伊豆神社・川柳町	1	①奉納御宝前 三十メ目 八条領伊原村
(37) 正八幡神社・川柳町	2	①奉納御宝前 九斗二□目 稻荷□□□②奉納 七斗二斗 伊原新田 若者中
(38) 稻荷神社・川柳町	1	①奉納御神石六十四メ目 寛政六寅年 二月初午 東方村 植竹由兵衛
(39) 墓地・向畑	3	①奉納七十貫目 向畑住同行十□②奉納一石目 天保三壬四月吉日 同行拾人
(40) 香取神社・大杉	1	①三十メ
(41) 香取神社・大杉新田	2	①奉納五拾貫 氏子惣中 天保十三年十一月吉日②三十二メ目余
(42) 不動明王・大吉	1	①六十五メ目 文政八酉九月吉日 中山万蔵
(43) 釈迦堂・袋山	4	①祀奉納 □□堂寶前 三十一メ目 袋山②奉納 □□□□ 三十メ目 ③八斗五升目 □□□□
(44) 稻荷神社・弥十郎	3	①奉納力石 文化四年八月吉日 五十一メ余 当所 中村常右エ門②奉納 寛政七年九月 三十六メ目 弥十郎村③判読不明
(45) 稻荷神社・東大沢高畑	5	①奉納 文政六年 四拾貫目 伊右衛門
(46) 大聖寺・相模町	1	①奉納玉子石 文政十年 当所 半蔵
(47) 日枝神社・相模町	1	①奉納石
(48) 伊南理神社・東町千疋	1	①稻荷大明神 三十五貫目
(49) 天神社・蒲生本町	1	①奉納 二十二メ
総計	136	

(二) 越谷市域

力石 奉納年代

〔西暦〕	〔年月日〕	〔所在地〕	〔刻字〕
一七〇〇	元禄十二三年	東越谷 香取神社	三十貫
一七三二	享保十七年	北川崎 川崎神社	五十五貫目 川崎村
一七三三	享保十八年	神明町 神明社	三十二貫目 神明下村
	享保十八年三月	神明町 神明社	三十八貫目 神明下
	享保十八年三月吉日	大林 香取神社	三十四貫目 新方領大林村若者
	〇〇十八年二月吉日	大林 香取神社	三十貫目 新方領大林村若者
一七三四	享保十九年四月吉日	野島 久伊豆神社	三十二貫目 野島村
一七三九	元文四年二月吉日	平方戸崎 香取神社	九十三貫目
	明和〇〇	伊原 八幡神社	九斗
一七九一	寛政三年	北川崎 川崎神社	三十四貫目 同行
一七九五	寛政七年	弥十郎 稲荷神社	三十六貫目 弥十郎村
一八〇六	文化三年十月	大間野 三社神社	五十九貫 当所 中村南右三門
一八〇七	文化四年八月吉日	弥十郎 稲荷神社	六十四貫目 東方稻荷口大神
一八一〇	文化七年	川野五 稻荷神社	四拾八貫目
一八一二	文化八年五月	大間野 三社神社	二十四貫目
一八二一	文政五年十月吉日	總ヶ谷 觀世音堂	四拾貫目 伊右衛門
一八二二	文政六年	大沢高畑 稻荷神社	四拾貫目 同行四人
一八二四	文政七年五月吉日	北川崎 川崎神社	五拾貫目 同行四人
一八二五	文政八年九月吉日	大宮 徳藏寺入口	六十五貫目 中山
一八二七	文政十年	相模町 大聖寺	半蔵
一八二九	文政十二年	瓦曾根 豊勝院	瓦曾根
	文政〇〇	七左一 稲荷社	二拾五〇 新〇〇
一八三二	天保二年四月吉日	總ヶ谷 久伊豆神社	五十貫目 三ノ宮卯之助持之
	天保三年四月	北川崎 川崎神社	五十貫目 本町 会田權四郎
一八三三	天保四年	七左 天満宮	五十貫目 伊右三門 民〇 庄次郎
一八三四	天保五年	下間久里 香取神社	二拾八貫目 下間久里村
一八三六	天保七年	蒲生道沼 八幡神社	二拾八貫目 株竹
一八四〇	天保十一年四月吉日	北川崎 川崎神社	八十貫目 川崎色 同行八人
一八四二	天保十三年十一月吉日	大杉新田 稲荷神社	五十貫 氏子惣中
	天保〇〇	北川崎 川崎神社	三十三貫目
一八四七	弘化四年五月吉日	大沢麓後 香取神社	五十一貫目 当所
	弘化四年九月吉日	南沢島 五社稲荷神社	三十八貫目 当所 伊之助
一八四八	嘉永元年	三野宮 香取神社	三ノ宮卯之助
	嘉永元年	三野宮 香取神社	三ノ宮卯之助 足面
	嘉永元年三月	三野宮 香取神社	三ノ宮卯之助持之
一八四九	嘉永二年	三野宮 香取神社	三ノ宮卯之助持之
一八五一	嘉永四年	大沢麓後 香取神社	四十一貫目 清水
一八五二	嘉永五年	總ヶ谷 八幡神社	會田石 神奈川 〇香持之
一八六三	文久三年二月吉日	北川崎 川崎神社	百貫目 川野村 同行八人
一八七四	明治七年五月七日	北川崎 川崎神社	五拾貫目 同行六人
一八九四	明治廿七年九月	瓦曾根 豊勝院	さし石 須賀初五郎
	明治廿七年九月	瓦曾根 豊勝院	さし石 須賀初五郎
	明治廿七年九月	瓦曾根 豊勝院	さし石 須賀初五郎
一九一九	大正八年七月吉日	蒲生一 久伊豆神社	二十五貫目 手玉石当所中野光治郎
	大正八年七月吉日	蒲生一 久伊豆神社	四十二貫目 大龜石当所中野光治郎

三ノ宮卯之助 (38個) の力石および所在地

八幡神社 (埼玉県春日部市粕壁東)	2
大門神社 (埼玉県さいたま市緑区大門)	1
飯塚神社 (埼玉県さいたま市岩槻区飯塚)	1
神明神社 (埼玉県さいたま市岩槻区釣上)	2
香取稲荷神社 (埼玉県さいたま市岩槻区新方須賀)	1
三野宮神社 (埼玉県越谷市三野宮)	4
向佐宅 (埼玉県越谷市三野宮)	1
久伊豆神社 (埼玉県越谷市越ヶ谷)	1
観音堂 (埼玉県越谷市瓦曾根)	1 所在不明
峯ヶ岡八幡神社 (埼玉県川口市峯)	1
氷川神社 (埼玉県戸田市上戸田)	1
稲荷神社 (埼玉県桶川市寿)	1
琴平神社 (埼玉県久喜市太田袋)	1
観蔵寺 (千葉県木更津市中里)	1
北野神社 (東京都江戸川区北小岩)	2
川崎大師平間寺 (神奈川県川崎市大師町)	1
若宮八幡神社 (神奈川県川崎市大師駅前)	1
山田神社 (神奈川県横浜市都筑区南山田)	1

杉山神社 (神奈川県横浜市都筑区大熊町)	1
諏訪神社 (神奈川県横浜市港北区綱島東)	4
鶴岡八幡宮 (神奈川県鎌倉市雪ノ下二)	1 所在不明
稲荷神社 (神奈川県鎌倉市雪ノ下一)	2
江の島神社 (神奈川県藤沢市江の島)	1
稲積神社 (山梨県甲府市太田町)	1
諏訪大社秋宮 (長野県下諏訪町)	1
大阪天満宮 (大阪府北区天神橋)	1
魚吹八幡神社 (兵庫県姫路市網干区宮内)	2

(38個)

埼玉県越谷市大袋地区三野宮 (旧武州岩槻藩領) 出身の力持ち力士であった。彼の名は興行広告や力持番付および各地の「力石」に認められる。

現在、三ノ宮卯之助が記載されている「力持番付」は左記の三点である。

- ★①天保四年六月 (一八三三) ・江戸・東大関
- ②天保七年六月 (一八三六) ・江戸・西関脇
- ③嘉永元年六月 (一八四八) ・江戸・東大関

有名力持の力石の数と所在地

平成19年8月25日現在

高崎 力

力士名	総数	所 在 地							
八丁堀亀島平蔵	19個	都内 15	神奈川 2	千葉県館山那古 1	千葉県松戸小金 1				
神田内田屋金蔵	16個	都内 11	三郷高須香取社 1	同彦倉延命院 1	館山那古観音 1	野田上花輪 1	三島大社 1		
豊島屋熊次郎	16個	都内 11	横浜金沢瀬戸神社 1	川崎市寿福寺 1	野田市瀬戸 1	神戸市御影 1	香川県豊浜 1		
大湊和七(大阪)	14個	広島 11	大宰府天満宮 3						
神田川飯田徳蔵	13個	都内 12	松戸下矢切 1						
神奈川権次郎(明石)	11個	横浜緑区 2	岡山県 2	広島県 4	福岡市 2	兵庫県明石 1			
元飯田町万屋金蔵	9個	都内 6	木更津観蔵寺 1	三島大社 1	銚子白幡神社 1				
新川七五郎(大阪)	9個	岐阜谷汲華厳寺 1	日本橋箱崎町郵船倉庫 1	(不明)	横浜都筑川向稻荷社 1	神戸長田神社 1	広島縣 1		
		神戸市御影 1	香川県豊浜 1	尾道郷土美術館 2					
本町東助	8個	都内 7	埼玉戸田水川神社 1						
大島伝吉	7個	都内 3	伊豆大島岡田港 1	伊東物見ヶ岡仏現寺 1	三浦三崎海南神社 2				
田中己之助	8個	都内 5	草加瀬崎浅間神社 3						
土橋久太郎	6個	都内 3	木更津観蔵寺 1	銚子白幡神社 1	諏訪大社上本社宮 1				
万屋直吉	6個	都内 4	木更津観蔵寺 1	大島大社 1					
扇橋三治郎	6個	都内 6							
大木戸仙太郎	6個	神奈川県北部の卯之助力石に連記 5		川崎市苅宿 1					
肥田文八	6個	岩槻市 2	さいたま市 1	久喜市 1	野田市八坂神社 1	松伏大川戸 1			
中村弥兵衛	5個	都内 4	神奈川寒川一之宮不動堂 1						
三ノ宮卯之助	38個	都内 2	埼玉 18	千葉 1	神奈川 12	甲府 1	諏訪 1	姫路 2	大阪 1

有名力持の力石の大きさと重さ

平成19年8月25日現在

高崎 力

力士名	石銘	石の大きさ		石の重さ	所在地	年代
		タテ	ヨコ アツサ cm			
豊島屋熊吉	熊遊	98	68×24	150貫 562kg(推測)	台東区浅草寺	明治7年
代地竹治郎 他2名	大鳳石	134	×81×52		台東区榊神社	明治2年
大島伝吉	勇鑑石	100	×58×37		伊豆大島岡田港	明治
尾張屋伊兵衛	奉納百メ目	80	×55×34	百メ貫	新宿市ヶ谷亀ヶ岡八幡	元治元年
中村弥兵衛	奉納五十五貫	65	×50×27	55貫 206kg	深川区八幡宮昭和31年7月	鬼子母神堂法明治より移転
内田屋金蔵	樊噲石(はんかい)	84余	×59×36	375kg	江東区富賀岡八幡宮	文化13年
木場材木町金七	奉納元八幡宮	58	×52×47	正目五拾二貫 195kg	"	寛政9年1月
扇橋三治郎	鳳卵石	100	×80×70	395kg	"	
鬼熊・大島伝吉	昇龍石	97	×56×42	375kg	"	明治22年 昭和42年砂村稻荷神社より移した
大島伝吉	扶桑石	80	×70×40	375kg	"	
木町金七	奉納天満宮	101	×57×30		江東区亀戸天神	
高須新助	奉納八十五貫	96	×47×34	八十五貫	愛知県一色町若一神社	
三ノ宮卯之助	大磐石	115	×79×23		大阪天満宮	天保11年2月(1840)
三ノ宮卯之助	大磐石	100余	×97×23		越谷市三ノ宮神社	嘉永元年3月(1848)
三ノ宮卯之助	大磐石	125	×57×35	160貫 610kg(実測)	桶川市寿稻荷神社	嘉永5年2月(1852)
三ノ宮卯之助	百廿貫	70	×40×35	百廿貫	甲府市太田町稻積神社	嘉永2年(1849)?

白岡町

白岡 常三郎

杉戸町

本郷 辰五郎
林 蔵

庄和町

金崎 駒治郎
下柳 嘉十郎

岩槻市

長宮 幸吉
岩槻 治良吉
末田 文治郎
文八
初治郎
金太郎
勝治郎
八十八
釣上 弥市
弥治郎

春日部市

八町 留吉
柏壁 松五郎
谷原 源太郎
大枝 丹治郎

越谷市

恩間 喜十郎
三ノ宮 卯之助
大 道 初五郎
越ヶ谷 安五郎
文治郎
瓦曾根 勘治郎
長島 源次郎
大相模 新蔵
八半蔵

松伏町

田島 金太郎
紋治郎
大川戸 年蔵
半治郎

草加市

金石衛門 林蔵

流山市

流山 十五郎

練馬

□松
重治郎
幸蔵

芝大木戸

仙太郎

千住

鉄五郎
安五郎

本郷

久蔵

三ノ宮卯之助の仲間たち…… (天保四年六月の御上覽力持から)

素人力持の興行は、多く社寺の開帳の折に催し、それも主に春から夏にかけてであった。力持に出る程の者は、いづれも力自慢で物好きの寄合いであるが、その中で給金を取る頭株は一、二人。その外は道楽に演ずる素人連中で、勿論無給であったから、興行人はこれをオスケと呼んで優待したものである。

興行場は三尺程高く盛土をし、前芸として樽の曲持や力石を差すのである。これ等の演者は所謂オスケと呼ばれた素人で、服装は浴衣の着流しや印半纏であった。かく前芸は米俵や酒樽を種々曲差した後石を差上げるのであるが、この時は介措人三人付きで、先ず力士は腰を落し両手を差出して身構えている所へ、三人かかりで石を載せると、力士のヨシというのを合図に手を離すのである。この石には芋(廿五、六貫目)、大さわ(三十貫目)、米饅頭(廿四、五貫目)、玉子(四十貫目以上)の四種あつて、それぞれオスケが力に依じて試みるのである。石は唯持上げるだけであるが、俵や樽には種々の曲持があつた。主なる曲名を挙げると、俵には「モチリ差し」「こば差し」「鷲の谷渡り」「大返し」「差しもんどり」「重ねもんどり」「腕だめ」「腕木差し」「片手どめ」「七分どめ」の十種。また樽には「のつきり差し」「鏡さし」「鼓返し」「ニンベン差し」「横二」「大返し」「腕だめ」「邯鄲夢の枕」「七分留」の九種であつた。

右の前芸が終ると、次に中芸として腹やぐら(腹の上に米七、八俵を載せる)・腹うけ(腹の上に白を載せて米を搗かす)・五人男(手や肩に五人乗る)・長柄うけ(一人で長柄を持ち米俵を投合つては受留める)・白の蛇の目ざし等を演ずるのである。

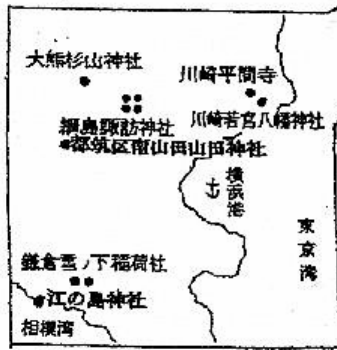
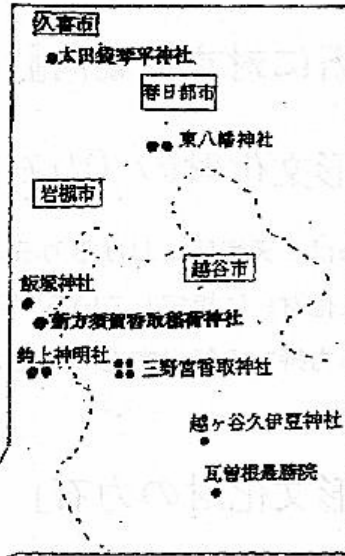
真打は多くは足の曲持である。三百貫目と称する大玉石(実は百五十貫目程)を足にて差上げ、また、田舟に米十俵(牛を米の代りとする事もある)を載せ、足で曲持をするのであるが、この曲が終つて一切りとするのであつた。

一体、力持の俵および樽は、特別に製したもので、普通の伊丹樽に水一杯張ると二十貫目以上となつて取扱ひ悪いから、特に十四、五貫目入りの物を誂え、また俵も十六貫跳切りと称しているが実は八掛けの十二貫余の物であつた。

力持につかう囃子は、馬鹿囃子の中でテンくドンドンドンという「しょうでん」と、テンくテンくテンドンドンテンくという「きざみ」を主に用いたのである。

三野宮卯之助 刻字力石の所在地

高崎 力



現在行方不明

第六十九回 昭和十三年十月十七日 (参加者) 亀田、太刀川、進藤、赤星
 都合に依って九月の鎌倉史蹟めぐりは出来なかったの
 都合に依って九月の鎌倉史蹟めぐりは出来なかったの
 二ヶ月振の顔合せである。史蹟めぐりは亀ヶ谷を歩く順に
 なってゐたので今日は順に従って歩く事にした。段葛を越
 えて八幡宮に参拝。社務所前に文字を彫りつけた伊豆石が
 立てかけてある。「奉納」「六十五貫目」「武州岩付」
 「卯之助持之」と読まれた。「動くかな。」と腰をかまめて
 急に一端に力を入れたら立てかけてあったので案外軽く起
 き余勢で反対側に倒れて危ふく足を其の下敷にするところ
 だった。社務所前に出来た新道を通って旧巨塚坂に向ふ。

鎌倉史蹟めぐり全記録 一 巻 三、〇〇〇円 (送料 二五〇円)
 昭和四十七年七月二十日 印刷 初版
 昭和四十七年八月二十日 発行
 編集兼 沢 寿 郎
 印刷所 村松印刷株式会社
 電話 05 466 1133
 電話 05 466 1133
 発行所 鎌倉文化研究会
 販売所 鎌倉市長谷二丁目寺内
 〒223 0001 鎌倉市

『力石に対する動向』

1. 「無形文化財の「力石による力持ち」

兵庫県姫路市は、天満区における力石の力持ち（神明・蛭子の両社）を市指定重要文化財（無形民俗文化財）に指定している（平成14年8月28日）。

※力石による力持ちの無形文化財指定は、全国でも唯一である。

2. 「有形文化財の力石」

現在、有形文化財として指定されている「力石」は、日本で300個程度であり、まだまだ見捨てられている力石が多い。

有形文化財に登録・指定されている「力石」

茨城県土浦市（7個）（昭和48年12月1日）

栃木県下都賀郡藤岡町（12個）（平成17年4月）

栃木県那珂川市（1個）（昭和47年5月16日）

埼玉県さいたま市（2個）（平成10年5月11日）

同 桶川市（1個）（昭和50年12月13日）

同 新座市（2個）（平成6年3月31日）

同 日高市（3個）（平成2年3月10日）

千葉県香取市（5個）（昭和52年6月1日）

同 旭市（6個）（平成17年2月18日）

同 長生郡自子町（6個）準文化財

東京都足立区（13個）（昭和59年11月14日）

同 江東区（84個）（昭和56年3月31日～平成12年3月27日）

同 新宿区（20個）（昭和61年8月1日～平成5年3月5日）

同 杉並区（14個）（昭和62年3月30日）

同 墨田区（15個）（平成7年10月5日～平成9年5月11日）

同 中央区（6個）（平成5年4月1日）

同 千代田区（18個）（平成元年4月1日～平成5年4月1日）

同 中野区（40個）（平成9年11月1日）

- 同 練馬区（15個）（平成5年3月9日～平成14年2月13日）
- 同 港区（6個）（平成6年3月22日～平成9年3月11日）
- 同 東久留米市（3個）（昭和59年3月31日）
- 岐阜県下呂市（4個）（平成9年10月）
- 愛知県幡豆郡一色町（5個）（昭和52年12月7日）
- 岡山県笠岡市（16個）（昭和58年4月8日）
- 広島県福山市（23個）（平成12年9月22日）
- 同 三次市（1個）（平成8年2月28日）
- 香川県観音寺市（1個）（平成16年6月1日）
- 愛媛県西予市（1個）社会教育資料
- 福岡県（6個）（昭和37年2月20日）
- 福岡県福岡市（3個）（平成17年）
- 長崎県島原市（3個）（平成11年4月9日）
- 同 対馬市（6個）（平成15年3月3日）
- 鹿児島県揖宿市（1個）（平成8年1月4日）
- 沖縄県宮古島市（3個）（平成14年5月8日）

3. 「現在も行われている「力石による力持ち」

現在でも力石を用いての「力持ち」が行われている所を下記に示す。

- ※福島県須賀川市塩田西清水（菅船神社）「太郎石持上大会（大祭・11月3日）」、
- ※埼玉県比企郡ときがわ町梶平（稲荷神社）「苦抜力石かつぎあげ大会（6月開催・平成七年復活）」、
- ※埼玉県秩父市番場町（秩父神社）「奉納力石（1月1日）」（以前は秩父郡横瀬町横瀬（神明神社）の「担ぎ石大会（秋季例大祭・昭和62年復活）として行われていたが近年、力石を運び、元旦に行われるようになった。秩父神社で行われるようになってからは、軽量の力石も準備し、一般の参拝客が挑戦できるようになった）、
- ※埼玉県比企郡嵐山町菅谷（菅谷館跡）「重忠力石大会（平成8年11月14日）」、
- ※東京都青ヶ島村「牛祭り」（8月10日）、
- ※富山県新川郡入善町「大盤（力石）祭（7月24日）」、
- ※石川県小松市（菟橋神社）「西瓜祭（秋季大祭・8月26～28）」、
- ※兵庫県姫路市大津区天満（神明神社）「秋祭り（10月21日）」市指定無形民俗文化財、

※兵庫県姫路市大津区天満（蛭子神社）「秋祭り（10月21日）」市指定無形民俗文化財、
※兵庫県姫路市広畑区才（天満神社）「平成17年『石運び』として開催」、
※岡山県真庭市大庭（大庭八幡宮）「秋祭り（10月15日）」、
※岡山県総社市（総社宮）「力石 in 総社（平成6年復活）」（これは半貫から26貫までの
15種類の石に紅白のロープを掛け地上から約10cm持上げ（一般に地切りといわれる
方法に入る）、その持ち続けたタイムを競うものである）、
※愛媛県東温市牛湫（浮嶋神社）「菖蒲祭（5月5日）」、
※高知県高知市土佐山弘瀬（仁井田神社）「秋祭り（11月8日）」
※高知県香美市香北町美良布（大川上美良布神社）「夏祭宵祭（7月27・28日）」、
※鹿児島県大島郡徳之島町下久志「十五夜祭り」、
※沖縄県南城市玉城「比嘉ウチョー杯力石（チチイシ）自慢大会（平成14年復活）」、
※沖縄県島尻郡久米島町謝名堂「旧盆のエイサー」、
※沖縄県石垣市川平西村（赤イロ目宮鳥御嶽）「豊年祭（壬午の日）」（神事で力を奉納）な
どがある。

4. 「俵を用いた「力持ち」

※深川力持陸会（昭和29年復活・昭和31年11月24日東京都無形文化財指定・
10月1日開催）、
※新城郷土芸能囃子曲持保存会（昭和48年復活・昭和53年7月7日神奈川県川崎市重
要習俗芸能（無形文化財）指定・10月第1日曜日開催）、
※盤持競技（富山県南砺市城端・東本願寺別院善徳寺・夏季土用虫干し法要時開催・昭和
53年復活。段位認定制度有り）などで保存継承されている。
※北海道夕張郡栗山町中里地区は、富山県からの移住者が多く、城端町と同様な「盤持ち」
が受け継がれている。中里盤持大会は、毎年11月第2日曜日開催されている。
※石川県かほく市指江や押水町上田では中学生や高校生が「盤持ち」を成人への通過儀礼
「立志式」として現在でも行っている。「立志式」とは14才になった男子が俵を担いで
一定距離を運ぶもので成人への仲間入りを認めてもらうために行われている。
※石川県羽咋市大町の盤持大会は、昭和59年復活後、数年続いたが現在では行われてい
ない。

江戸力持三宮卯筋

樽俵由持
四拾五又余
指之卯筋
牛曲持

俵倉藏
六拾俵 腰持

五人目曲持
石百貳拾五持

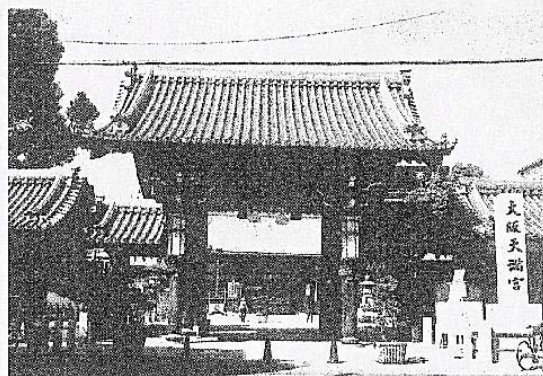
大名言責余五持

鶴成先 御上取
仕





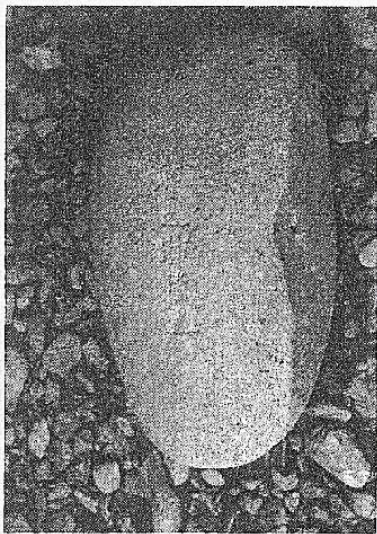
魚吹八幡神社（兵庫県姫路市網干宮内）



大阪天満宮（大阪府大阪市北区天神橋）



三ノ宮卯之助曲持 力石



三ノ宮卯之助持之 力石



大阪天満宮にて「大磐石」を足指

☆ 主な引用資料 ☆

四日市大学論集

第17巻1号 抜刷 2004年9月

《論説》 三ノ宮卯之助(2)

高島 慎助(四日市大学教授)

高崎 力(埼玉県越谷市文化財調査委員長)

東京の力石

2003年8月20日 初版発行

著者 高島 慎助

発行所 (有)岩田書院

埼玉の力石

2007年1月1日 第1刷発行

著者 高島 慎助

発行所 (有)岩田書院